

150MHz帯アナログ簡易無線局用周波数におけるデジタル方式との周波数共用に関する調査検討会の取り組みと期待される効果

参 考

150MHz帯 デジタル簡易無線 の現状と課題

平成20年8月に400MHz帯のデジタル簡易無線が制度化されたが、150MHz帯の周波数割当は未だない。

150MHzアナログ簡易無線は、全国で約14万5千局が利用しており、9chしかない周波数は逼迫している。

アナログ方式の無線設備の使用は縮小していく方向 → デジタルの移行へ向けて早急な対応が必要。

150MHz帯 デジタル簡易無線 の周波数は？

【周波数が割り当てられない理由は？】

150MHz帯の周波数は全体としてたいへん逼迫しており、既存のアナログ簡易無線用の周波数帯とは別にデジタル波を割当て可能な周波数帯の抽出ができない。

【考えられる方策】

- 既存のアナログ周波数帯(154.44～154.62MHz)にアナログ局と共用でデジタル波を割当てる。
- アナログとデジタル波を共用する際に必要となる条件を調査検討する。

調査検討会では

調査検討会では、主として次の事項について検討を行う

- 同一周波数帯で既存のアナログ波とデジタル波を使用する場合の共用条件。
- アナログとデジタル通信の干渉回避のための方策
- 150MHz帯デジタル簡易無線の需要動向と高度化のためのアプリケーションの調査 他

期待される効果は

150MHz帯デジタル簡易無線の制度化を目標

○ 150MHz帯デジタル簡易無線の特徴

- ・400MHz帯デジタル簡易無線に比べ通信距離が長く、山間部など地形上不利な条件においても通信が確保しやすい。
- ・データ伝送を活用した多種多様な利用が見込める。
- ・チャンネルの狭帯域化により、理論上、現行のアナログ簡易無線のチャンネル数(9ch)の約3倍のチャンネル割当が可能で、通信の輻輳が軽減できる。